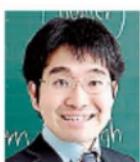


岐阜新聞真学塾

出題 蟹雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知つてもらえばと思ひます。

問題【国語】

次の古文単語の意味を答えましょう。

(1) なやむ

(2) あつし

(3) おこたる

豆知識 雑学コラム

悩ましい？ 古文単語

今日は古文単語の中でも病氣に
関わる言葉を見ていきましょう。
古文が書かれた平安時代は、現在
のように病氣の原因や治療法など
全く分からぬ時代でした。その
ため、病氣はお化けや幽霊の仕業
だと考えられ、「もののけ」と呼
ばれていました。そして、病氣に
なると今のように病院に行って治
すのではなく、お坊さんを家に呼

んで、お祈りをして病氣を治そう
としました。このように今とは病
気に対する考え方が違う時代、病
氣についてどんな言葉を使ってい
たのか見ていきましょう。

まず、「なやむ」です。現代語
では「あれこれと心をいためる」
という意味で、精神的、心理的な
問題に使うことが多い単語です
ね。古文では、「この「なやむ」を

「病氣である」という意味で使つ
ことがあります。古文では、一
つの単語を現在よりもより広い意
味で使うことがあります。「なや
む」も、精神的なもの以外に肉体
的なものも含めて、「問題があつ
て、元氣がない」ということを表
して、「病氣になる」という意味
で使いました。

【解答】

- (1) 痴
- (2) 寒
- (3) 患